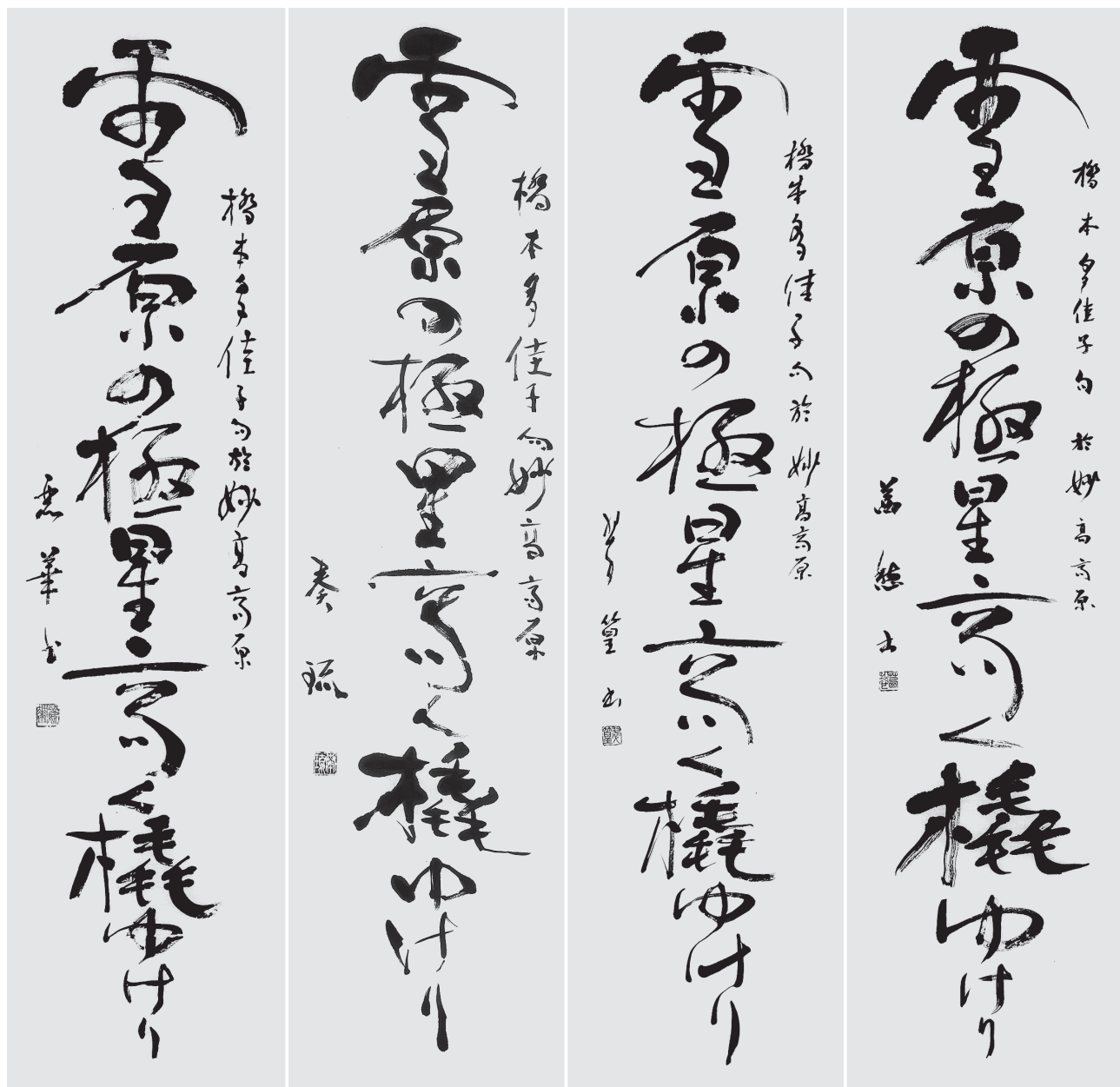


葛西玄濤先生選評

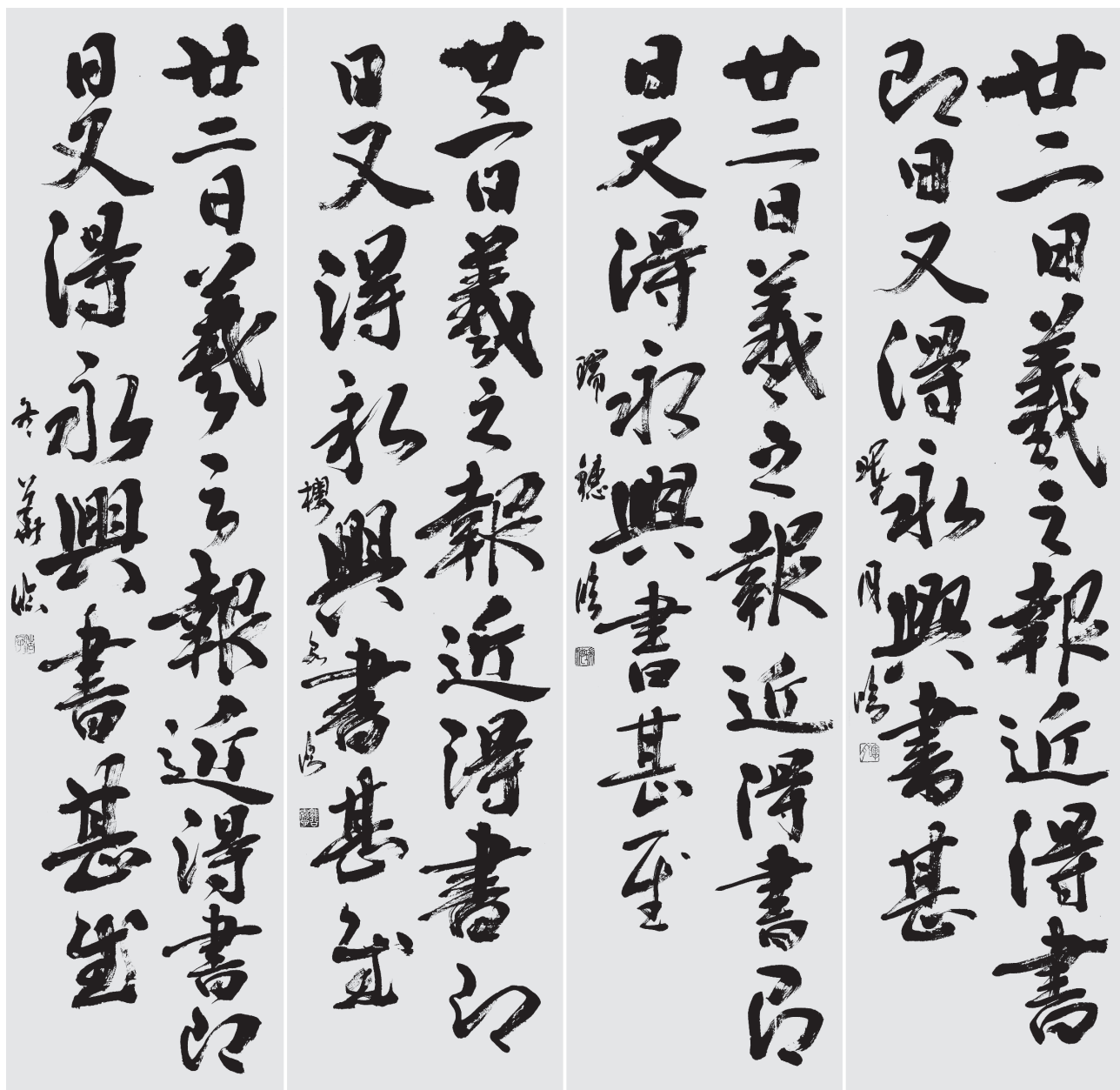


山本 茜 愁 推選
 始めの「雪原の」やや重厚でゆつくりな連筆。「極星」から流暢で爽快な明るい空気が。「櫓」から冷静沈着な安定した線が響く。三部の構成が違和感無く魅力的だ。

五十里 翠 篁 推選
 一貫した運筆の速度と浮沈の変化、腕の動きの安定から、とても完成度の高い作品が生まれました。堅実な書法でありながらも、華やかな彩りが心を打ちます。

赤平 奏 琉 推選
 強く鋭い線が作品を引き締めています。厳寒の雪原に負けない線には感動します。細線であっても強い線質が変らない技術は、多くの作品に生かせると思います。

由見 麗 華 推選
 「雪」が大きく強調されているので、そのあとの文字が押し潰されるのではと思いますが、しっかりと踏んばる強い線と活発な動きで作品を個性的な形にした。



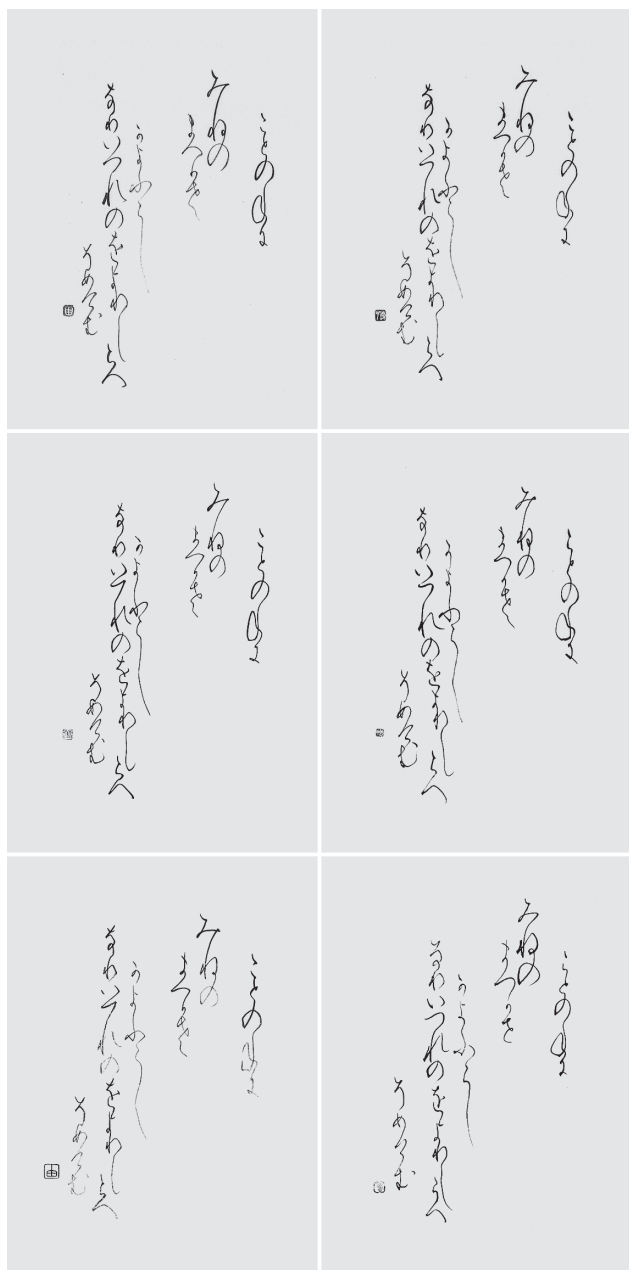
鈴木暉月 推選
原帖を良く見て書作しています。運腕大きく重厚で丸みのある線質と流暢な用筆は、観る側に心の安らぎを与えてくれます。潤渴の変化も自然で白眉の作。

清川瑞穂 推選
参考作品を上手く把握して書いています。力まずに一気呵成に書かれた書作態度は称賛に値します。字間の余白の取り方が素晴らしく明るい上品な作品です。

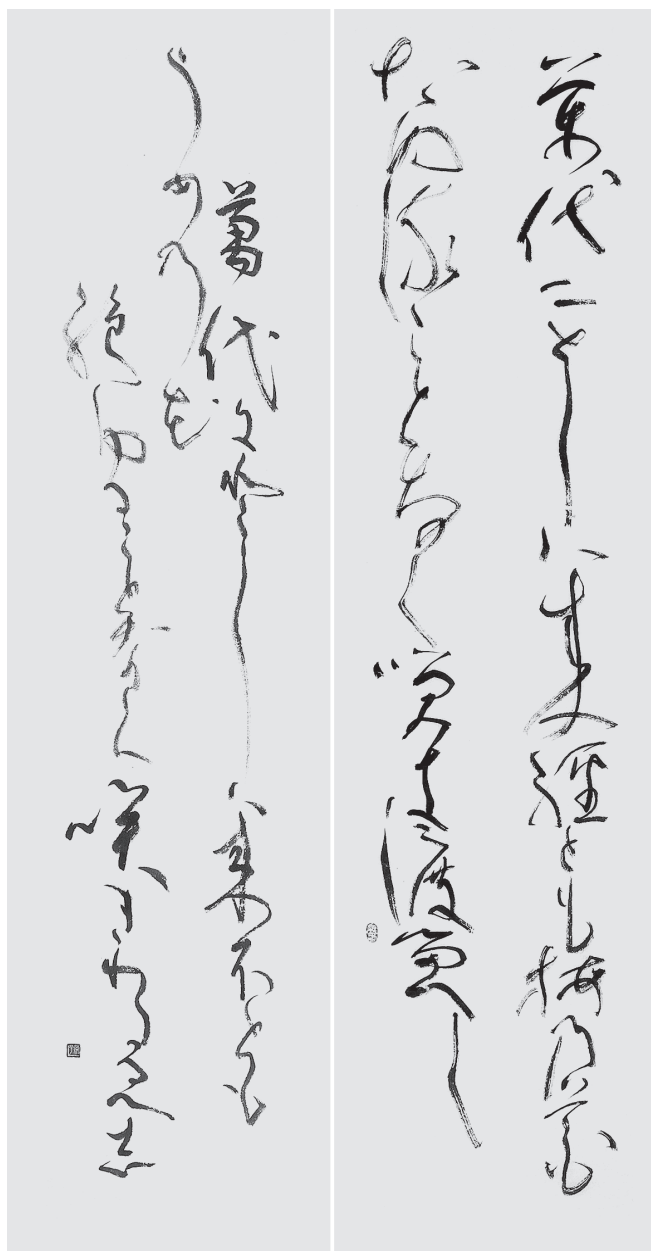
熊谷櫻泉 推選
力強い筆圧に太細、潤渴の変化が巧みで、筆が良く動いています。空間の筆意も自然で、縦の連綿が見事です。一行目の「書」字、若干左に寄りましたね。

小林冬華 推選
迫力ある運筆。やる気に満ち溢れた雰囲気好感が持てます。筆の動きを上手く駆使して、渴筆の処理が抜群です。伸びやかさがある分、下が少し詰まりました。

柏谷富美子先生選評



久保田淳子先生選評



和泉由起子 八段
墨の配分には一考の余地がありますが、素朴で落ち着いた運筆は、作品を安定感あるものとなりました。

鈴木春蘭 七段
軽快でリズムミカルに、筆よく躍動しています。これに渴筆が加わると更に表情豊かな作となるでしょう。

中村由美子 五段
筆の下ろし方が足りない感が残念ですが、丁寧な筆遣いで、やさしい表情の作となりました。

後藤煌雪 師範
連綿美で知られるこの古筆、その連綿線が自然体で心地良い。穏やかな中に、生彩を感じさせる作となりました。

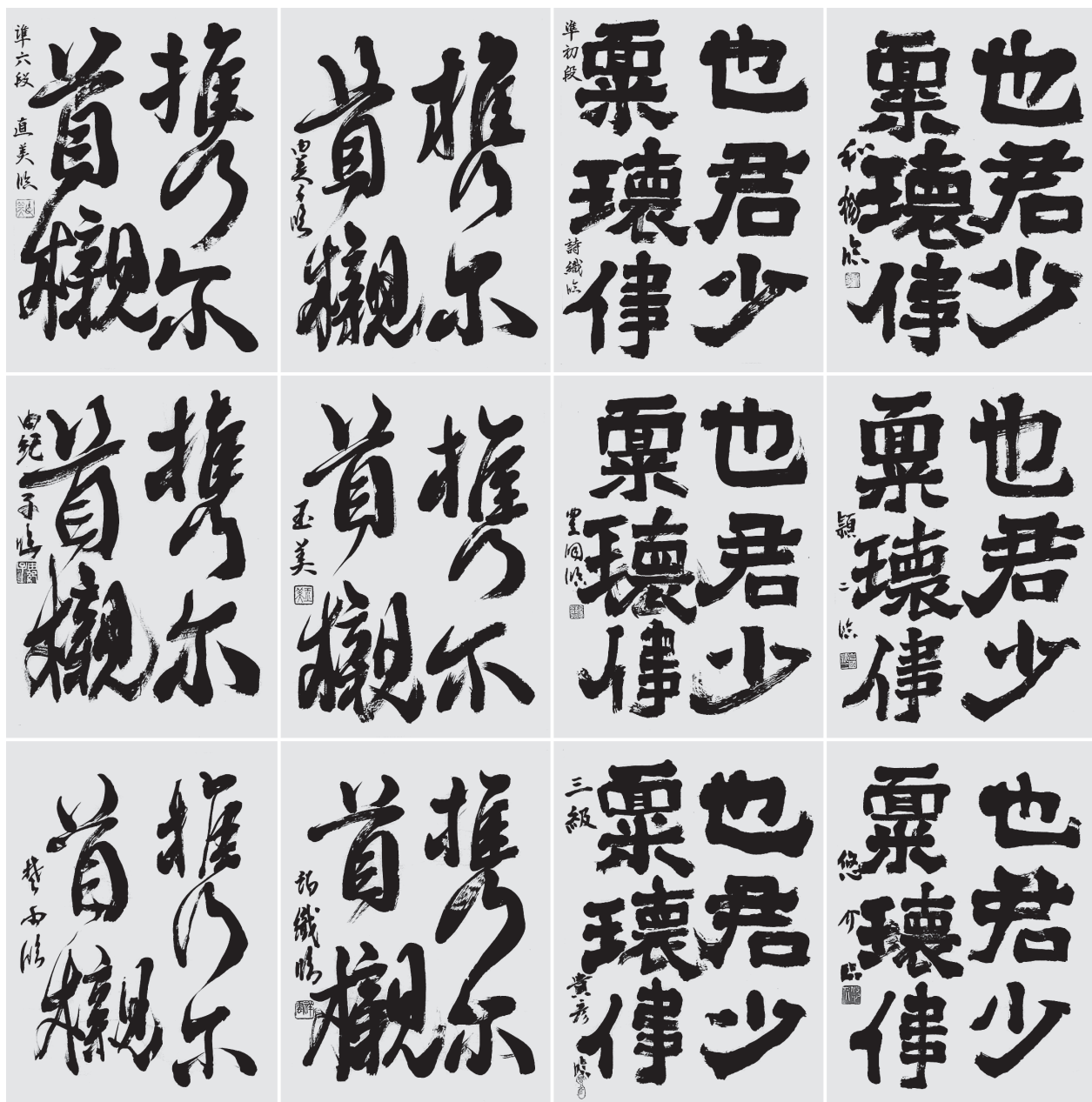
大友悠草 師範
伸びやかな作風はその線質の豊かさから生まれたものでしょう。墨量の加減に留意すると更に高度な作となります。

清水千寿 八段
文字の大小に考慮の余地があります。伸びやかな線条はいかにも明るく、さわやかな作となりました。

仲山栄子 推選
ちらしに工夫し、伴って文字も考慮されて居る。書き出しが目立つのと「うめの花」に無理がある様に感じる。連綿が美しく流れて早春の暖かい空気感あり。

川畑彩春 推選
銜いのない美しい運筆。全体のバランスもよく、かなり難しいと思われる文字遣いも消化されて居る感じがする。やや大きい渴筆部分も程よい動きが面白い。

武良霜伯先生選評



山田直美 準六
濃墨を駆使しながら、淡々とした運筆が実に味わい深いと思う。筆の開閉が自在で堂々としているが、下部の行間に注意されたい。

前田由美子 師範
遅速緩急の変化が見事で、気力が充実の半紙作品です。急がず騒がず落ち着いた運筆は長年の習練の成果であると感心しました。

詩織 準初
やや小振りでも、落筆と抜筆が高く、渴筆も利いており、半紙作品の作り方を心得ている。落款なども一工夫されれば、研究を望みます。

菊池和暢 師範
筆線が紙面によく定着しており、重厚感抜群。健康的で伸びがある。左払いの伸びが特に印象的で、力強さ流石に見事です。

藤澤由紀子 二段
筆力があり潤渾の変化も自然で、全体を良く纏めており、安定した作品です。落款、雅印の場所は、真中近くに下げた方が落ち着いたと思う。

門田玉美 八段
筆が縦横無尽に良く動いており、全体を柔らかに表現されているのは流石だと思います。四字目のような渴筆が一行目にも欲しいでしょうか。

龍 豊洞 一級
剛毛？兼毫筆でしょうか。ガンガンと迫力満点に書いていく姿が目につきます。じっくりと紙に食らい付く運筆、タッチが窺えます。

岩國頼二 六段
深みのある強い線。文字の骨格がしっかりしており、その中に余白を取り入れており明るい。熟練の技が見て取れ敬服致しました。

柏村楚雨 一級
用筆の微妙さを捉えて、情感の機微を良く表現している様に思う。「祭姫文稿」の紙に筆者の意志を刻み込む様な気迫が感じられます。

小川詩織 準八
スピード感があり、大胆な筆の運びは、この作品に生き生きとした躍動を齎している。最後の「楓」やや抑えたかっただけですが…。

清水貴彦 三級
饅首子碑の原石の特徴を、飾ることなく素直に捉えており、好感が持てます。落款、印の入れ方にも拘りを持って向かつて欲しいです。

蒲澤悠介 準五
筆勢豊かで一字目から最後まで気脈が通貫。余白も充分取れており感心致しました。落款にも一工夫あれば更に決まると思います。